

道徳参観日のアンケートに、ご協力していただきありがとうございました。その中から一部をご紹介します。

◆「参観授業」についてのご意見・ご感想より

★道徳の参観日はどんなことをするのだろうと思っていました。子ども達の視点でそれぞれがのびのびと思ったことを発表する姿には少しびっくりしました。そして、見ていて、“ああ、こんな考え方もあるのか”うちの子はそんな風に考えているのか、など、こちらもいろいろと考えさせられました。1組と2組は話の内容が違っていました、どうしてですか？また、別の日に今日の分は各クラスが取り組むのでしょうか？道徳について勉強するという機会はなかなかないので、教科書でこんなことを考えるのかと分かりよかったです。正解がないというか、答えが一つでないのが難しいと思うところもありました。（質問＝道徳の授業は、2クラスある学年も道徳の年間指導計画にそって時間が異なっても同じ内容を1年間で学習します。）

★勉強したページを読ませていただきました。「嫌がらせをしたオオカミ」が「いいことをするオオカミ」になった。誰かのために何かしよう。と思える気持ちは大切なことだよねと娘と話したことでした。自分のしていたことが、相手をどんな気持ちにさせているか考えることができれば、お友達も仲良くできるし、自分の気持ちも楽しくなれるねと話したことでした。

★今回の道徳の授業は、おじいさんといちょうの木の気持ちを考えるという内容で、「木」の気持ちを考えるということは、子ども達にとって少し難しいのかな？と感じていましたが、みんなそれぞれにきちんと「木」の気持ちを考え発表している姿に驚きました。見えない気持ちを読み取ろうと考えることで優しい気持ちが育っているのだなあと思いました。

◆「家庭で取り組む 高知の道徳」を使った学級・学年懇談会のご意見・ご感想より

★「あいさつ・お手伝い・がまんさせる」について懇談し、皆様のご家庭の悩みも同じで、安心できたり参考になったり。同じ年の子どもを持つ親御さんと意見を共有できる機会は懇談会ぐらいしかないので参加して良かったといつも思います。ありがとうございました。

★あいさつの話が主でした。あいさつはとても大切なことなので、学校でもあいさつをたくさんする機会があり良いことだと思いました。小さい頃からあいさつはすごく言ってきたことですが、小学校へ入学してから“知らない人に声かけせんこと”と言うと娘も困惑（今まで逆のことを言ってしまったので）していました。親としても子どもへの伝え方が難しい部分もありますね。なのでまだまだ、あいさつに関しては家でも注意することが多いです。

★「道徳」とずっと言われてきて、子ども達は授業で学ばせて頂いていますが、普通に生活している中で、家庭・学校・スポーツクラブ・地域の行事など、人と関わる中では全てが道徳的な学びだと思って、自分で考え行動する力、人を敬うというあたり前の心が育つように子どもには向き合っているつもりです。机上の空論にならないよう、知識をため込むだけでなく、子どもには自然に身につけて成長して欲しいです。私は、子どもに寄りそうことは一番ですが「こびる」ことは絶対にしないですし、子どもが自分で歩ける力を身につけさせるのが大切だと思っています。他の家庭の話が聞けるのはとても参考になります。

